

2006年 1月
Vol. 20

美

緑



当社の薪ストーブです

2005年に對して「お疲れ様でした」と労をねぎらい、2006年には『今年もよろしくお願ひします』と決意を新たにします。そんな年の変わり目がやってきました。

周りの人たちに感謝をし、多くの新たな出会いがある年になるようお祈り申し上げます。



美緑ある総合造園工事業
株式会社 シムラ

〒939-2306 富山県富山市八尾町井田 246
〒939-2251 富山県富山市下大久保 3213-1
TEL 076-467-2244 Fax 076-467-1534
TEL 076-455-2244(夜間)

~ 冬の薬剤散布のお願いです ~

12月初旬にまとまった雪が降り、根雪になったかのように降り積りました。例年ですと、1月の晴れた日に冬の薬剤散布を行ってありますが、2006年は順調にできないことが予想されます。

ツツジ等の低木類は雪の中ですから、雪が小康状態になった頃を見計らってから、施工しますのでよろしくお願ひします。また年間管理で予定に入っていないお宅も冬の薬剤散布をお勧めいたします。

冬の薬剤散布は、石灰硫黄合剤という硫黄のにおいのする黄色い薬剤を使います。気温が10℃以下になると20~50倍で散布します。

カイガラムシ等の駆除と、モチ・サルスベリに付くスス病、レッドロビンに付く赤星病、カシに付くうどん粉病等への殺菌効果があります。

濃い倍率で散布しますので、窓ガラスに付くとなかなか落ちない欠点もあります。窓ガラスにかかるないように注意して散布します。窓ガラスにあらかじめ水をかけて、散布後もう一度水で洗い流します。ご理解の程よろしくお願ひします。



屋根雪おろし等
行っております。
ご用命があればご連絡
お待ちしています。



センリョウ(千両)

センリョウはセンリョウ科で、12～1月頃茎の先に赤い実が固まって付きます。黄色い実をつけるキミノセンリョウという種類もあります。

お金の名前が付いたセンリョウは縁起木とされ、正月の切花に使われ、親しまれています。樹木の下や庭石の際に植えるとよく、自然樹形を楽しんで下さい。



センリョウ



キミノセンリョウ

マンリョウ(万両)

センリョウは茎の先に実を付けますが、マンリョウはヤブコウジ科で葉の下にぶら下がるように実を付けます。白い実を付けるシロミマンリョウ、黄色のキミノマンリョウがあり、それぞれ12～1月に実を付けます。

センリョウ同様縁起木として使われ、樹木や石の際に植えると引き立ちます。枝葉が込んで風通しが悪くなると、アラムシが発生しやすくなるので、切り詰めてすかしてやり、新しい枝を生長させるとよいでしょう。



キミノマンリョウ



マンリョウ

ヤブコウジ

山野に自生する常緑低木で草丈は20cm程度まで伸びますが、グランドカバーとしても多く利用されています。11～12月に真っ赤な実を葉の下に付けます。

ヤブコウジのコウジは「好事」ということで、縁起木として正月の盆栽・門松の寄植えに使われます。緑の葉と赤い実のコントラストがとてもきれいで。



ヤブコウジ



ヤブコウジの花

ナンテン

12～1月に赤い実を付けるものが一般的ですが、白い実を付けるシロミナンテンや、紫・橙色の実を付ける品種もあります。実を付けて赤くなる時期に葉も紅葉し、実は咳止めのくすりとして利用されています。

難を転ずる＝ナンテンの語呂合わせで縁起木とされ、鬼門よけに植えられます。

手入れをしないと茎が長く伸び見苦しくなるので地上30cm残して切り戻して、切り花として利用する手入れ方法もあります。



ナンテン



ナンテンの花



シロミナンテン

ウメモドキ

11～翌年の3月頃まで木全体に赤い実を付けているので果実がない冬には小鳥が好んでこの実を食べに来ます。黄色い実を付けるキミノウメモドキ・白い実を付けるシロウメモドキの品種がありますが、雌木にしか実を付けません。

高さは2～3mになる落葉広葉樹で、和風の庭にあうでしょう。



ウメモドキの花



ウメモドキ

アオキ

12～1月に1.5～2cmの楕円形の赤い実を付け、翌年の4月頃まで残り、楽しめます。雌木と雄木があり雄木は実を付けません。淡黄白色の実を付けるシロミノアオキという品種もあります。

目隠しや生垣に使われ、手入れも比較的簡単な常緑樹です。葉の汁は解熱効果があるといいます。



アオキの花



アオキ

見て楽しむ・実のなる木